

平成26年横浜港の港勢

入港船舶

		単位	26年	前年比	構成比	25年	前年比	構成比
総数	隻数	隻	36,187	96.0	100.0	37,706	101.8	100.0
	総トン数	総トン	276,721,196	102.0	100.0	271,276,977	99.1	100.0
外航船	隻数	隻	9,863	98.9	27.3	9,970	96.7	26.4
	総トン数	総トン	234,485,541	102.8	84.7	228,007,909	98.4	84.0
うち フルコンテナ船	隻数	隻	4,547	94.9	46.1	4,789	94.0	48.0
	総トン数	総トン	112,866,554	97.4	48.1	115,907,526	94.8	50.8
内航船	隻数	隻	26,324	94.9	72.7	27,736	103.7	73.6
	総トン数	総トン	42,235,655	97.6	15.3	43,269,068	102.6	16.0

海上出入貨物

		単位	26年	前年比	構成比	25年	前年比	構成比
総数	貨物量	トン	117,014,290	98.2	100.0	119,171,168	98.2	100.0
	うちコンテナ貨物量	トン	40,861,065	97.2	34.9	42,054,075	94.7	35.3
	コンテナ個数	TEU	2,880,029	99.7	100.0	2,888,220	94.6	100.0
外貨	計	トン	73,695,858	99.0	63.0	74,407,937	95.5	62.4
	輸出	トン	31,141,288	99.0	26.6	31,462,625	95.0	26.4
	輸入	トン	42,554,570	99.1	36.4	42,945,312	95.9	36.0
うち コンテナ貨物	計	トン	38,575,628	97.6	52.3	39,519,431	94.5	53.1
	輸出	トン	16,303,643	93.4	52.4	17,449,739	91.2	55.5
	輸入	トン	22,271,985	100.9	52.3	22,069,692	97.3	51.4
コンテナ個数	計	TEU	2,611,771	100.9	90.7	2,588,074	94.8	89.6
	輸出	TEU	1,391,042	100.2	48.3	1,388,456	94.7	48.1
	輸入	TEU	1,220,730	101.8	42.4	1,199,618	94.8	41.5
内貨	計	トン	43,318,432	96.8	37.0	44,763,231	102.9	37.6
	移出	トン	17,462,551	97.9	14.9	17,844,119	103.6	15.0
	移入	トン	25,855,881	96.1	22.1	26,919,112	102.5	22.6
うち コンテナ貨物	計	トン	2,285,437	90.2	5.3	2,534,644	98.1	5.7
	移出	トン	1,216,953	89.3	7.0	1,363,398	97.2	7.6
	移入	トン	1,068,484	91.2	4.1	1,171,246	99.2	4.4
コンテナ個数	計	TEU	268,258	89.4	9.3	300,147	93.3	10.4
	移出	TEU	103,097	89.8	3.6	114,855	102.0	4.0
	移入	TEU	165,161	89.1	5.7	185,292	88.7	6.4

(注) コンテナ個数は、実入・空の合計。

「うちコンテナ貨物」の構成比は、外貨又は内貨の貨物量に占めるコンテナ貨物の割合。

貿易額

		単位	26年	前年比	構成比	25年	前年比	構成比
合計		百万円	11,734,937	107.4	100.0	10,921,656	104.6	100.0
輸出		百万円	7,117,710	105.5	60.7	6,747,976	99.6	61.8
輸入		百万円	4,617,227	110.6	39.3	4,173,680	113.9	38.2

(注) 横浜税関資料による(確定値)。

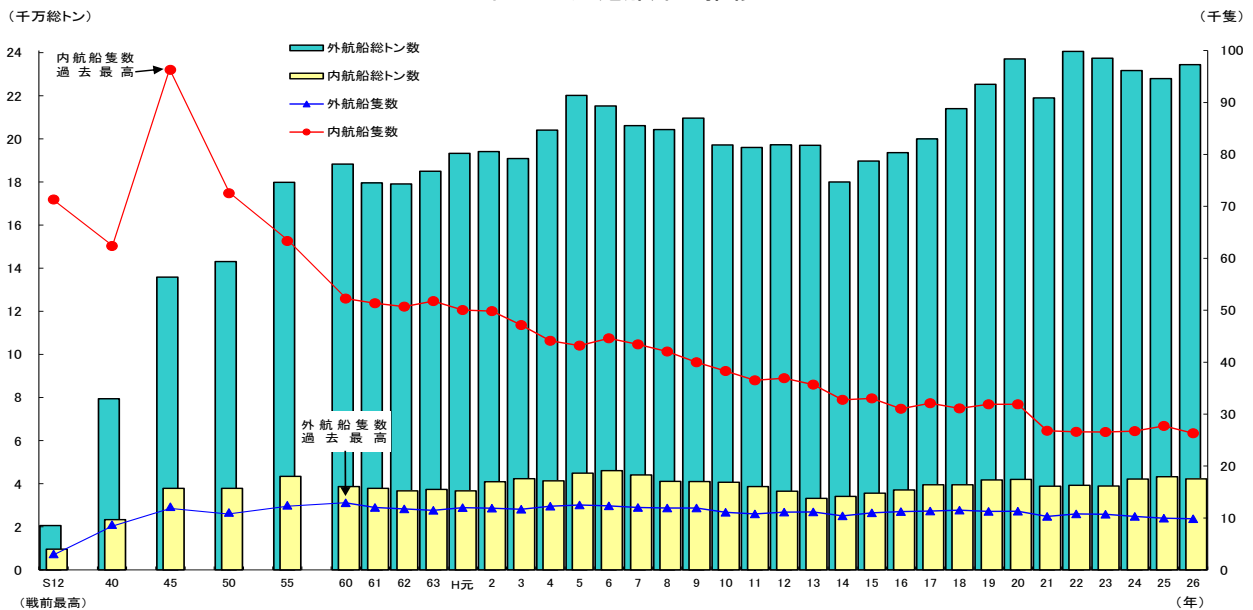
平成26年の横浜港の総貨物量は、1億1,701万トン（前年比1.8%減）で、前年に比べ微減となりました。外貿貨物は、輸出3,114万トン（1.0%減）、輸入4,255万トン（0.9%減）といずれも微減となりましたが、輸出の中核をなす完成自動車は好調に推移し、前年比11.4%の増となっています。また、内貿貨物は移出1,746万トン（2.1%減）、移入2,586万トン（3.9%減）といずれも減少となりました。

コンテナ取扱個数は、外貿・内貿合計で288万TEU（0.3%減）となりました。

1 入港船舶 【P 9】

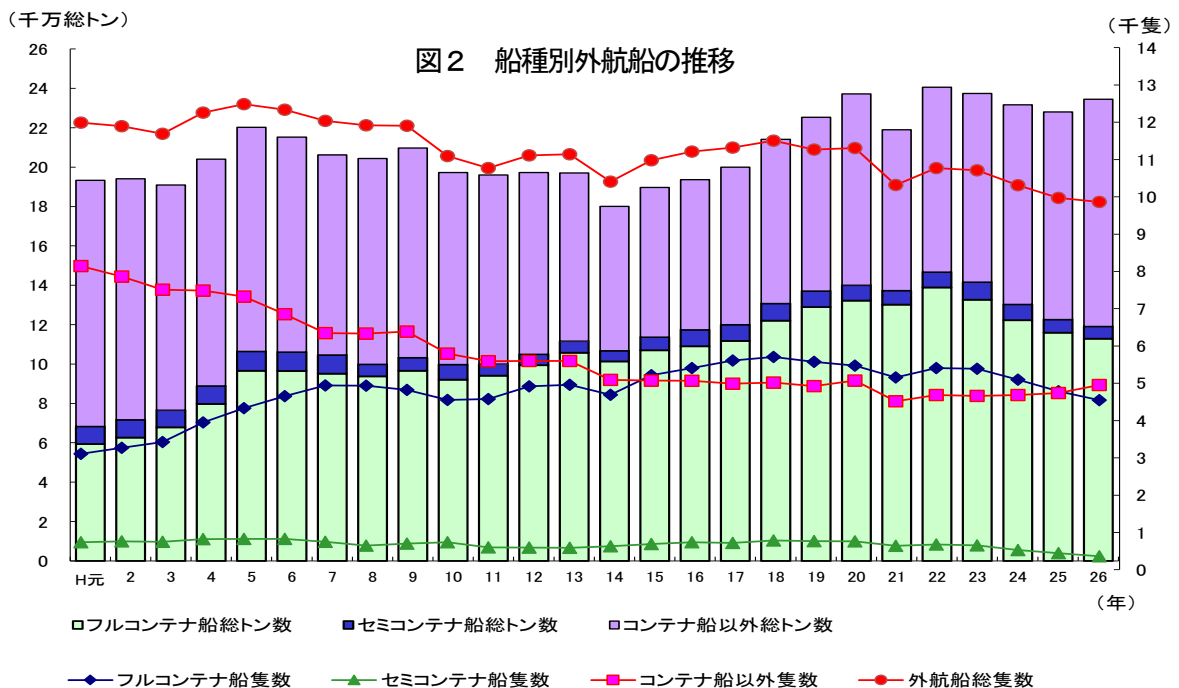
入港隻数は外航・内航合計で3万6,187隻（前年比4.0%減、以下増減%は前年比）となり、2年ぶりに減少となりました。総トン数は2億7,672万総トン（2.0%増）となり、4年ぶりに増加に転じています。

図1 入港船舶の推移



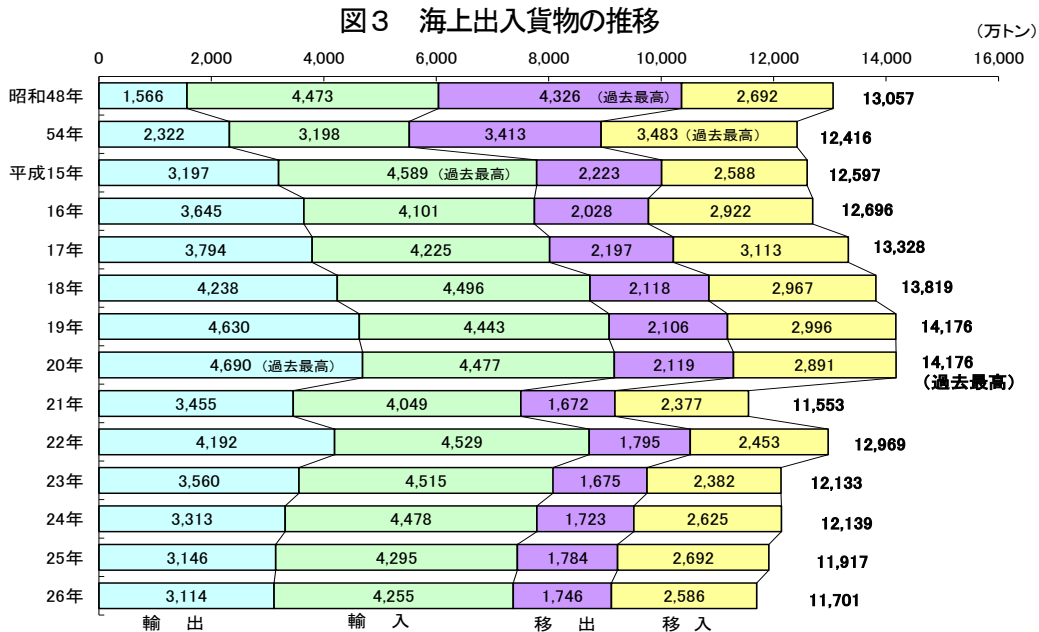
外航船の入港隻数は9,863隻（1.1%減）、総トン数は2億3,449万総トン（2.8%増）となりました。このうちフルコンテナ船は4,547隻（5.1%減）、総トン数は1億1,287万総トン（2.6%減）となっています。

内航船の入港隻数は2万6,324隻（5.1%減）、総トン数は4,224万総トン（2.4%減）となりました。



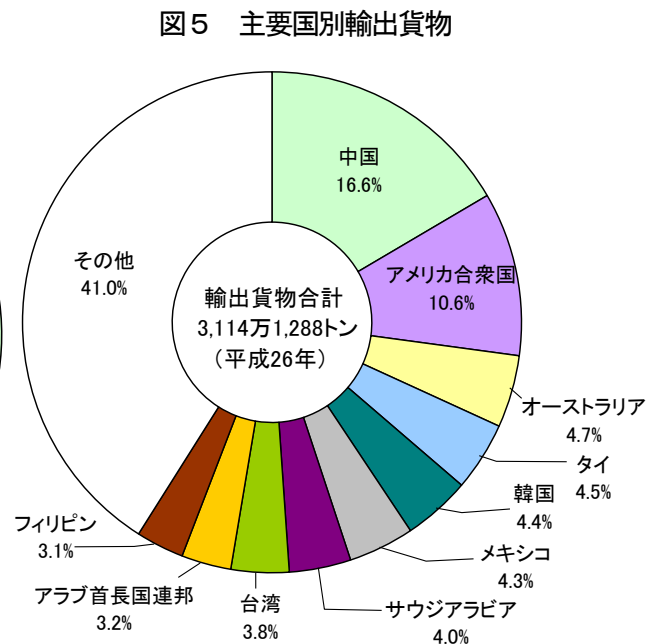
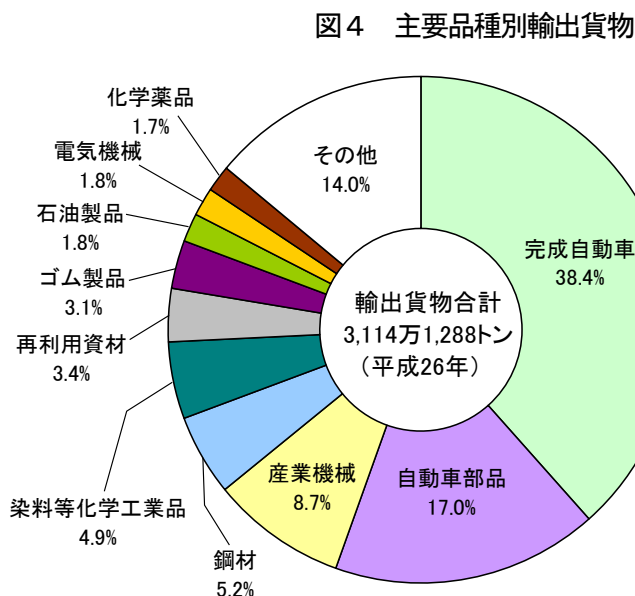
2 海上出入貨物

- (1) 総貨物量 … 昨年に引き続き減少、外貿は4年連続の減少、内貿は3年ぶりの減少 【P14、15】
 総貨物量は1億1,701万トン(1.8%減)で、そのうち外貿貨物量(輸出・輸入)は7,370万トン(1.0%減)、内貿貨物量(移出・移入)は4,332万トン(3.2%減)となりました。中国向け貨物の減少などにより、前年に比べ微減となっています。



- (2) 輸出貨物 … 前年比1.0%減で4年連続の減少 【P14~16】

輸出貨物量合計は3,114万トン(1.0%減)で、4年連続の減少となりました。
 品種別にみると、第1位の「完成自動車」は1,197万トン(11.4%増、構成比38.4%)、第2位の「自動車部品」は531万トン(5.3%減、構成比17.0%)となりました。
 貨物量上位10品種合計でみると、2,679万トン(2.3%増、構成比86.0%)と昨年と比較して増加に転じましたが、その他の品種の減少が影響し、合計では減少となりました。
 国別にみると、第1位の中国が、再利用資材、染料等化学工業品などで10%超の減となったことが影響し、516万トン(12.2%減、構成比16.6%)と4年連続の2桁減となりました。また、第4位のタイ(23.5%減)、第5位の韓国(18.1%減)も2桁減となりました。



(3) 輸入貨物 … 前年比0.9%減で4年連続の減少【P14～16】

輸入貨物量合計は4,255万トン(0.9%減)で、4年連続の減少となりました。

品種別にみると、第1位の「LNG(液化天然ガス)」は863万トン(前年比増減なし、構成比20.3%)、第2位の「原油」は472万トン(5.3%増、構成比11.1%)となりました。

貨物量上位10品種合計でみると、2,407万トン(3.8%増、構成比56.6%)と、輸出と同様に昨年と比較して増加に転じましたが、その他の品種の減少が影響し、合計では減少となりました。

国別にみると、第1位の中国は798万トン(1.3%減、構成比18.8%)で前年を下回りましたが、第2位のオーストラリアはLNGなどの取扱いが増加し、541万トン(15.4%増、構成比12.7%)で前年を上回りました。

図6 主要品種別輸入貨物

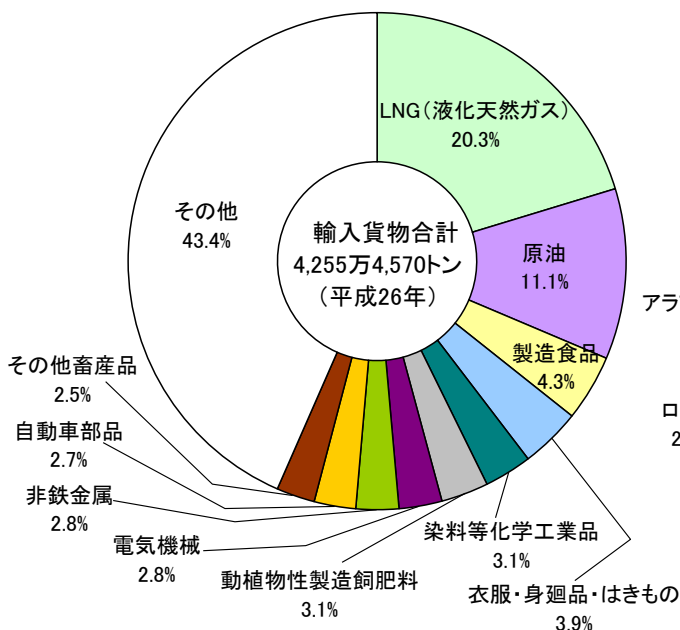
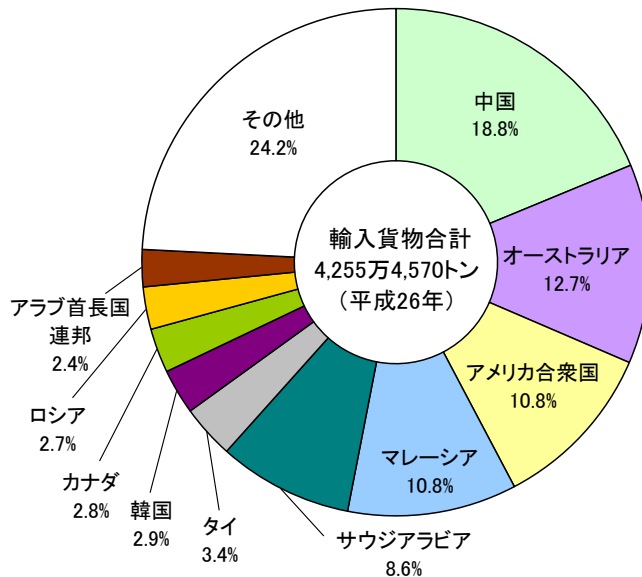


図7 主要国別輸入貨物



(4) 内貿貨物 【P14、15、18】

移出入貨物量合計は4,332万トン(3.2%減)で、3年ぶりに減少となりました。

品種別にみると、移出第1位の「石油製品」は396万トン(2.6%減、構成比22.7%)、移入第1位の「原油」は966万トン(3.9%減、構成比37.4%)となっています。

港別にみると、移出第1位の千葉港は336万トン(8.7%減、構成比19.2%)で「石油製品」の取扱いが最も多く、移入第1位の喜入港は966万トン(3.9%減、構成比37.4%)で「原油」のみの取扱いとなっています。

図8 主要品種別移出貨物

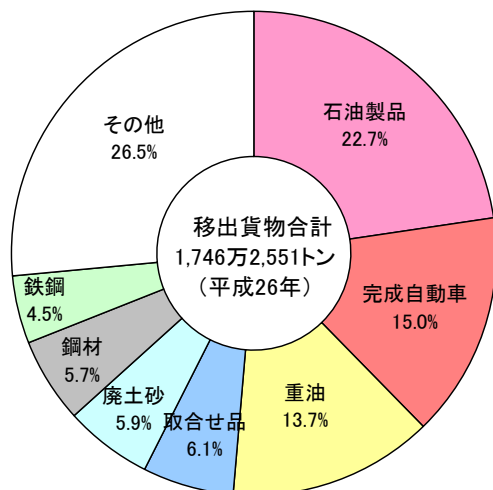


図9 主要港別移出貨物

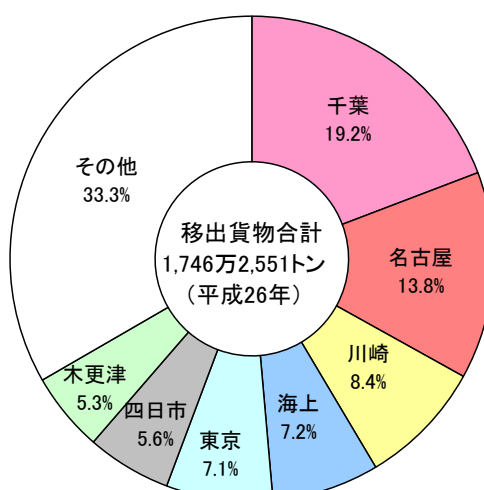


図10 主要品種別移入貨物

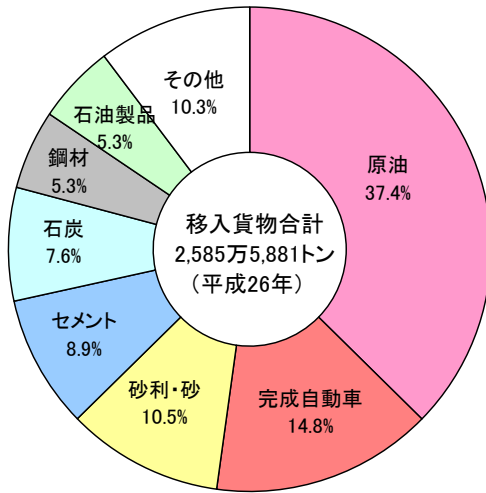
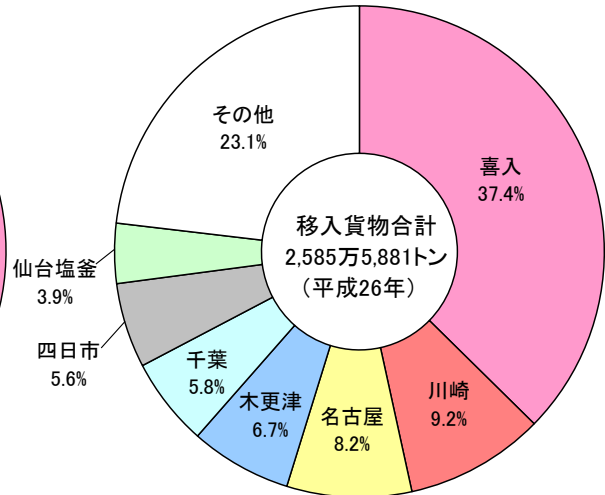


図11 主要港別移入貨物



(5) コンテナ貨物 … 外貨貨物に占めるコンテナ貨物の割合、11年連続で5割超え 【P14、15、25】

外貨コンテナ貨物量は、輸出が1,630万トン(6.6%減)、輸入が2,227万トン(0.9%増)、輸出・輸入合計では3,858万トン(2.4%減)で、4年連続の減少となりました。

外貨貨物全体に占めるコンテナ貨物の割合は52.3%で、11年連続で5割を超えています。

図12 外貨貨物量の推移

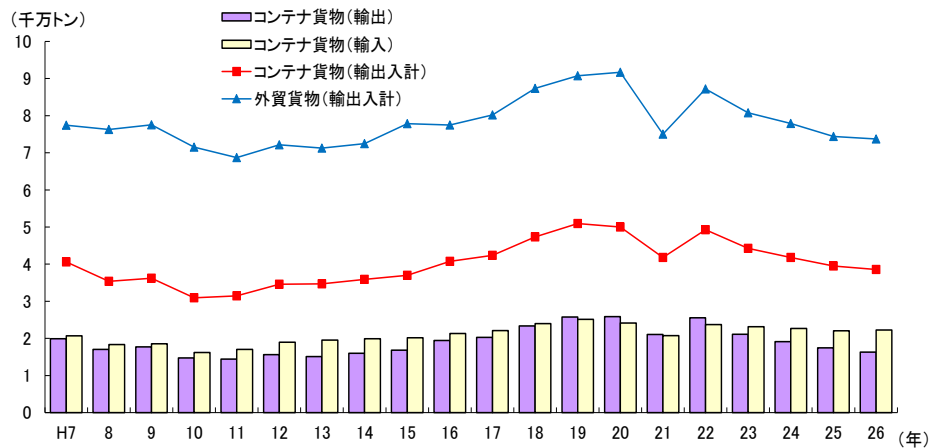
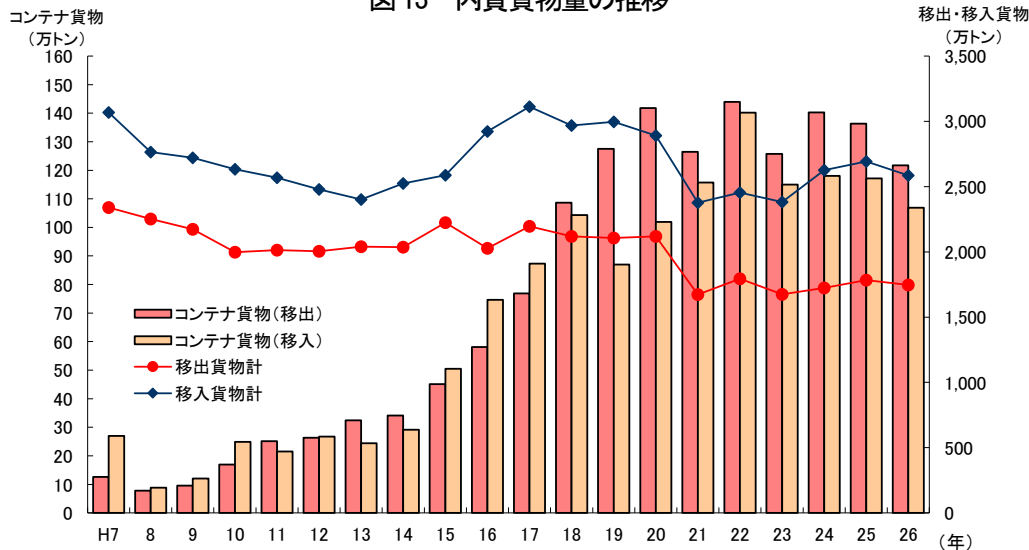


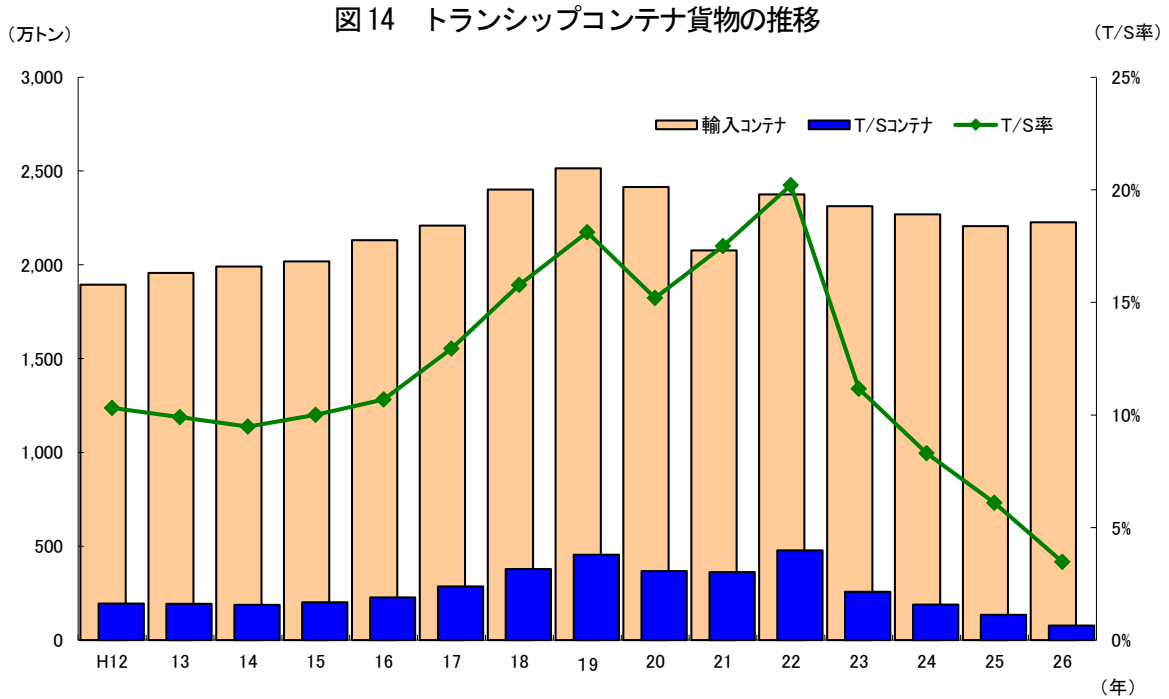
図13 内貨貨物量の推移



内貨コンテナ貨物量は、移出が122万トン(10.7%減)、移入が107万トン(8.8%減)、移出・移入合計では229万トン(9.8%減)で、2年連続の減少となりました。

(6) トランシップコンテナ貨物 【P26】

輸入コンテナ貨物のうち、横浜港で積み替えたトランシップコンテナ貨物量は77万トン、トランシップ率は3.5%で、4年連続の減少となりました。

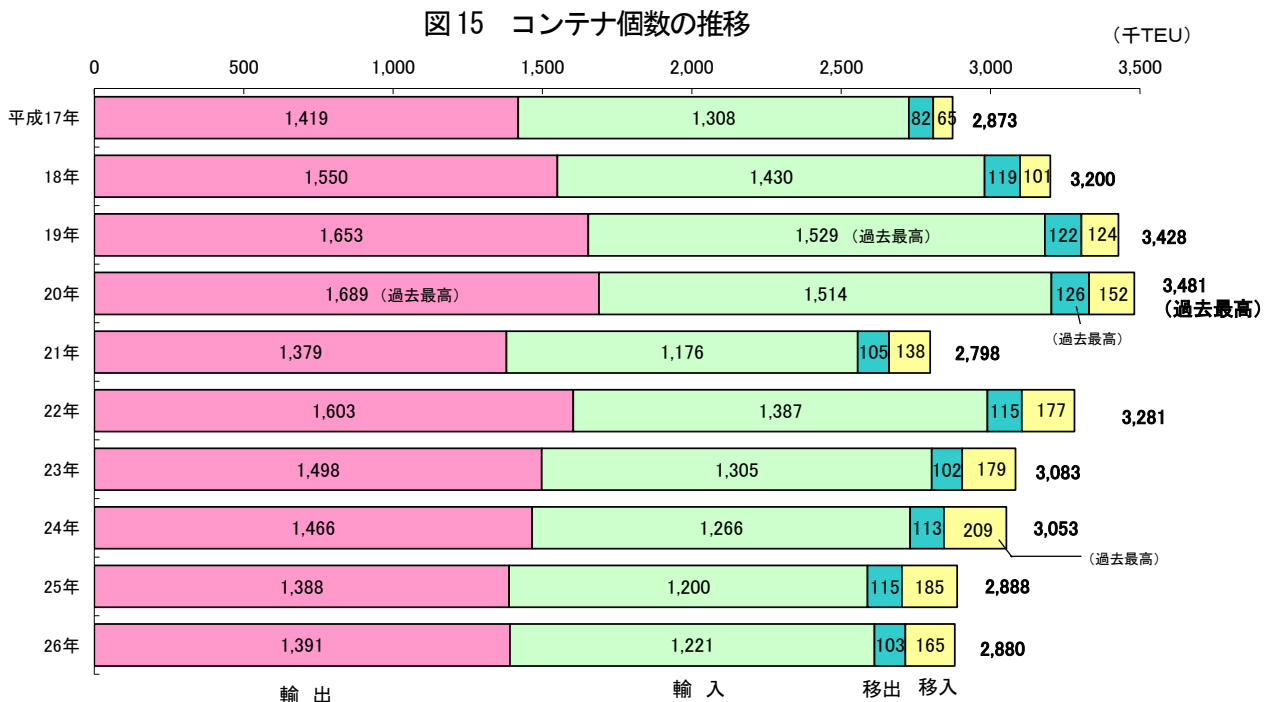


(7) コンテナ個数 … 前年比0.3%減で288万TEU、外貿は4年ぶりの増加【P20~25、P48】

外貿・内貿合計は288万TEU (0.3%減) で、4年連続の減少となりました。

外貿コンテナ個数は、輸出が139万TEU (0.2%増)、輸入が122万TEU (1.8%増)、輸出・輸入合計では261万TEU (0.9%増) となっています。国別にみると、輸出ではベトナム、アラブ首長国連邦及びメキシコなどが2桁増となっています。輸入では中国、韓国及びインドネシアなど、上位10か国中6か国が前年を上回りました。

内貿コンテナ個数は、移出が10万TEU (10.2%減)、移入が17万TEU (10.9%減)、移出・移入合計では27万TEU (10.6%減) で2年連続の減少となっています。



横浜港のコンテナ取扱個数（288万TEU）は、東京港（489万TEU）に次いで15年連続で第2位となりました。主要5港では、横浜港のほか、大阪港が前年の実績を下回っています。

図16 主要港別コンテナ個数

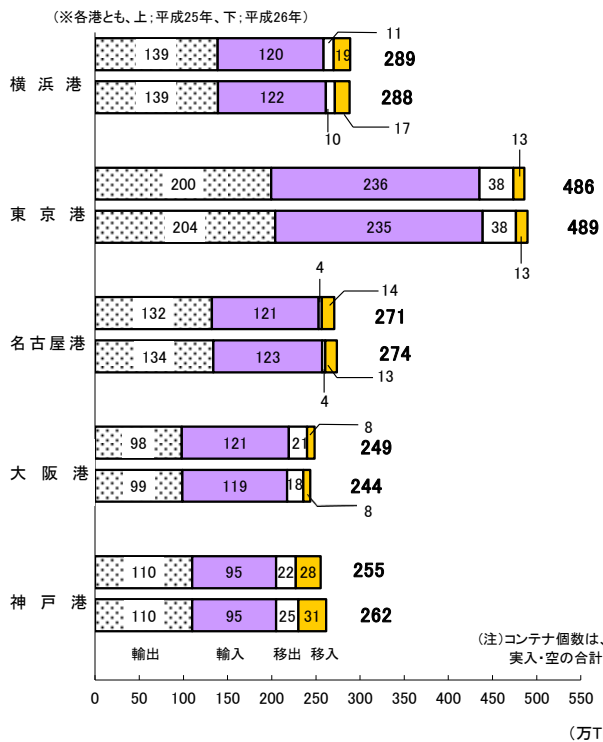
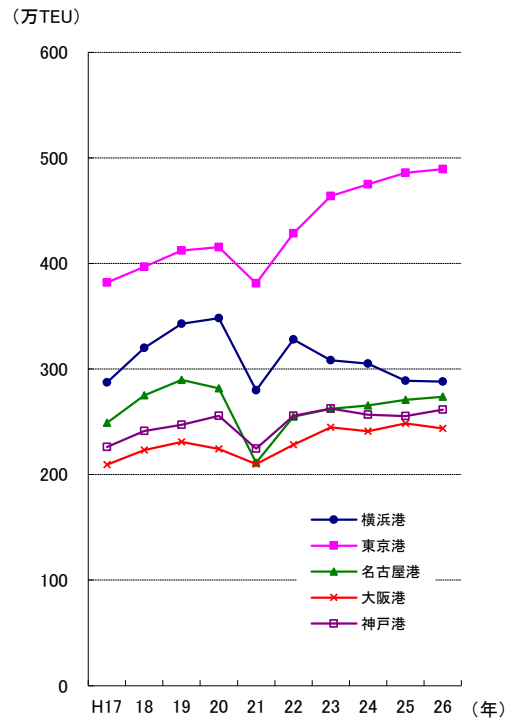


図17 主要港別コンテナ個数の推移



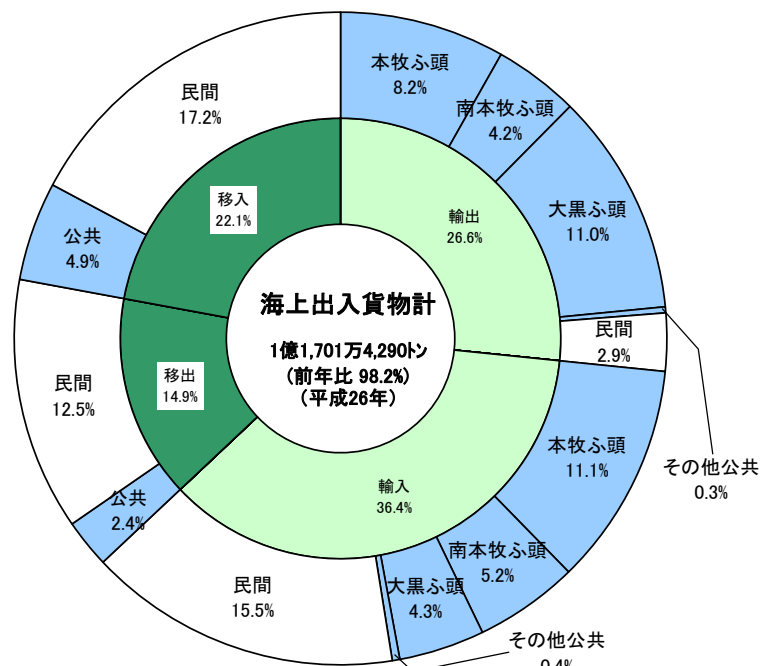
3 施設別取扱貨物量 【P28～30】

総貨物量1億1,701万トンに占める公共施設の取扱貨物量は6,073万トン（1.3%減、構成比51.9%）、民間施設は5,629万トン（2.3%減、構成比48.1%）となりました。

これを、外貿・内貿別に比較すると、外貿貨物は公共施設での取扱量が5,218万トン（1.0%減、構成比70.8%）で、外貿貨物量の約7割を占めており、取扱第1位は「本牧ふ頭」の2,254万トン（3.0%減、構成比30.6%）となっています。

一方、内貿貨物は民間施設での取扱量が3,478万トン（3.2%減、構成比80.3%）で、内貿貨物量の約8割を占めています。

図18 施設別取扱貨物



※ 公共（本牧、南本牧、大黒、その他公共）は、横浜市及び横浜港埠頭株式会社が所有する施設。